



年末年始労働災害防止強調期間にあたり

日鉄エンジニアリンググループの皆さん、ご安全に！

早いもので今年も残すところあと1ヵ月となりました。本年の安全成績は、昨年の過去10年間でのワーストに近い状況に比べ、発災件数においては改善の兆しが見られます。しかしながら、2月には重大災害が生じ、重点事項である墜落災害根絶も引き続き大きな課題と言えます。災害の要因は、従前からの課題である「人的要因」が多くを占め、一人ひとりの危険意識の持ち方と、行動場面での啓発意識をいかに高めるかが災害リスク低減の大きなポイントです。

例年、年末年始は繁忙感や気ぜわしさ、気の緩みから気分が散漫になりがちとなり、災害が多発する傾向にあります。私たちはこの時期を重点期間と位置付け本年の方針や現在までの発災事例の反省を踏まえ、以下の事項を再確認し、全員で無災害の年末年始を迎えましょう。

➤ 2023 年年末年始重点活動事項

(1) 災害事例の再周知と現場での活用

- ① 昨年から現在までに生じた災害事例を再度周知し危険に対する感度を向上させる。
- ② 上記災害状況において自部門にて類似点がある場合は再発防止対応を総点検する。
- ③ 本社支社の管理者層は期間活動中での安全パトロールを必須活動事項とする。

(2) 工事計画やKYにて行動面（人的要因）での災害要因排除

- ① 工事計画審議やリスクアセスメントは店社幹部（室長以上）が必ず参画し対策の漏れを防ぐ。
- ② 工事の節目や予定外作業での「再KY」は現地現物KYとして必須ルール化する。
- ③ 指差確認（ひと呼吸運動・AAO活動など）を全員に周知徹底しリスク（危険）を意識させる。

(3) 高所作業・重機作業における綿密な作業計画・現場総点検の実施

- ① 高所作業と重機作業における作業計画時でのリスクの抽出（顕在化）を徹底する。
- ② 高所作業と重機作業における基本ルール遵守について現場総点検を実施する。

年末の繁忙さや冬季での気象条件変化により、体調を崩しやすい季節となります。うがいや手洗い等の衛生面の管理も併せてお願いします。全員が健やかな新年を迎えられるよう団結して期間での「災害ゼロ」を達成しましょう。

ご安全に！

2023年12月1日

安全衛生・環境部長 藤田 崇